

学生の取り組み紹介 ～学生が環境都市づくりの主人公～

筑波大学

環境ディプロマティックリーダー
育成プログラム

(EDL: Environmental Diplomatic Leader)

筑波大学大学院生命環境科学研究科

若杉なおみ

(EDL専任教授: 国際保健医療、感染症、環境・開発・健康)

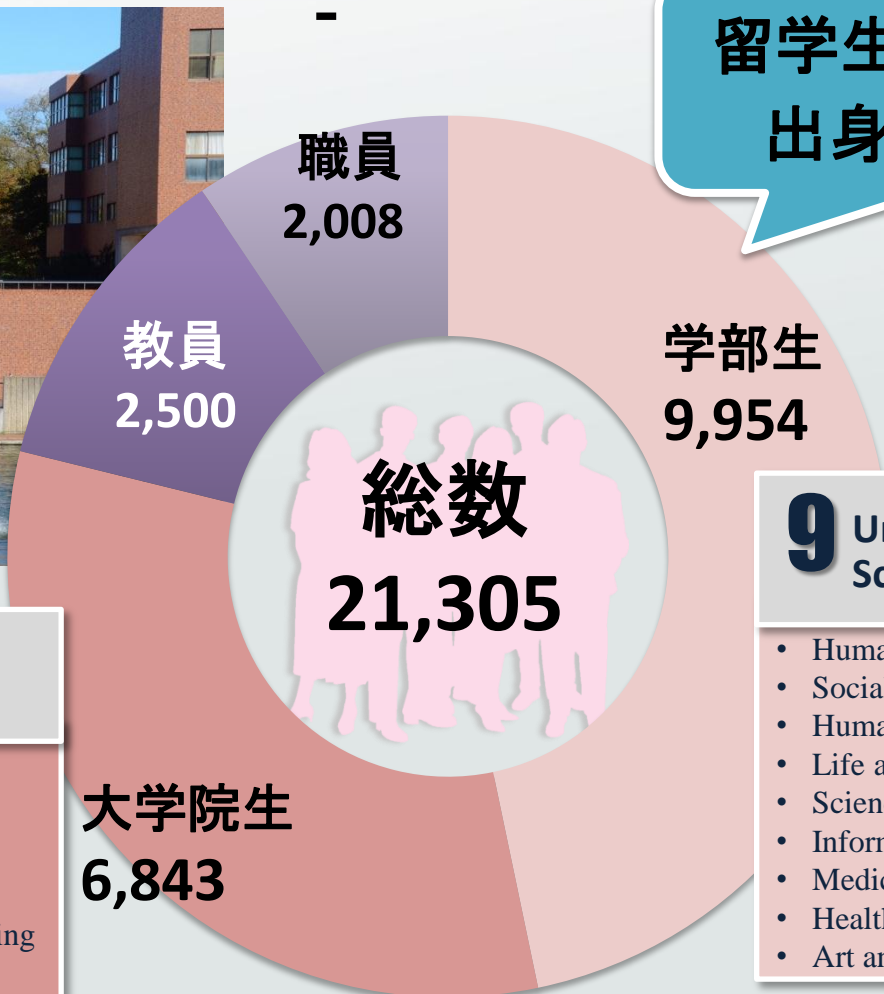
筑波大学と環境

- **日本で最初の「環境学」**大学院修士課程を開設(1980)
- これまで3000名以上の環境関連修了生を輩出。
- 大学院生命環境科学研究科の環境科学専攻(修士)と持続環境学専攻(博士)へと改組(2007)
- 国際的 (世界86ヶ国から1664名の留学生が学んでいる。)*
- **「環境ディプロマティックリーダー育成プログラム」開始(2009)。**
文部科学省・科学技術振興機構の「戦略的環境リーダー育成拠点形成」プログラムの一環。
現在筑波大学以外にも東大、京大、九州大学など17大学で「環境リーダー」を作るためのプログラムが実施されている。

筑波大学の 学生と教職員数・留学生数



留学生総数 **1,664**
出身国 **86ヶ国**



8 Graduate schools

- Education
- Humanities and Social Sciences
- Business Sciences
- Pure and Applied Sciences
- Systems and Information Engineering
- Life and Environmental Sciences
- Comprehensive Human Sciences
- Library, Information and Media Studies

9 Undergraduate Schools

- Humanities and Culture
- Social and International Studies
- Human Sciences
- Life and Environmental Sciences
- Sciences and Engineering
- Informatics
- Medicine and Medical Sciences
- Health and Physical Education
- Art and Design

“垣根をこえて” 取り組む環境問題

- 環境問題に国境はない。(国際性)
- 理系も文系も必要。(学際性)
- 事件は現場で起きている。
(現場と実験室の垣根をこえる)

なぜ留学生に環境を学んでもらうのか？

- **NIMBY (Not In My Back-Yard: 自分の近所だけは困る)**ではなく。。。
- 問題解決の場が国際的になっている。
(IPCC(気候変動に関する政府間パネル)など)
- アジア・アフリカの途上国の、急激な開発にともなう環境悪化。
- 日本はお手本になれるか？
つくばはお手本になれるか？
- 専門的知識も備え、現場の問題解決に活躍できるリーダーが欲しい。



環境ディプロマティックリーダー 育成プログラム



さまざまな出身国



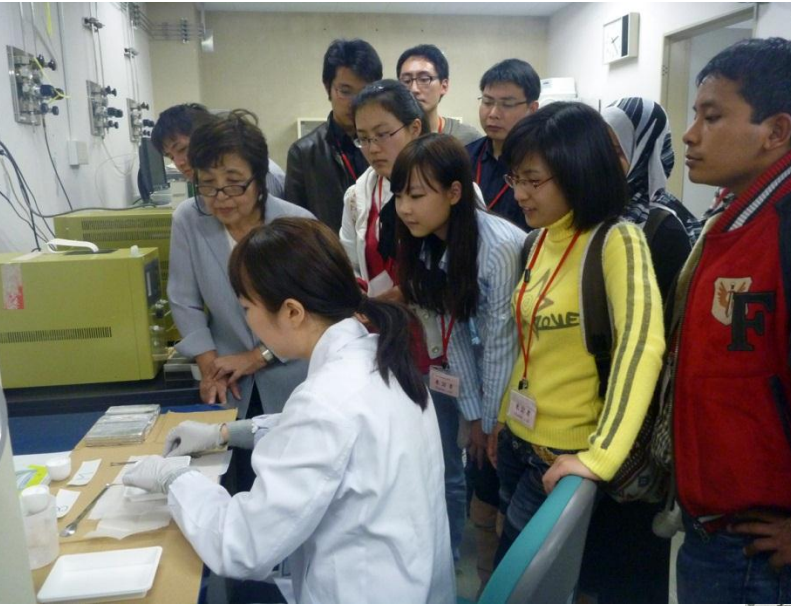
霞ヶ浦



足尾銅山



世界で初めての「環境汚染」による甚大な健康被害 —水俣病—を現地で学ぶ。



自分の毛髪水銀量を測ってみる。
国立水俣病研究センターにて。

水銀条約外交会議
受け入れ態勢探る
県推進協議会
水俣・芦北部会
熊本市と水俣市で2013年10月開催が予定されている、水銀条約外交会議の受け入れ態勢を話し合う県推進協議会の水俣・芦北部

会合を開いた。
同部会は県や地元市町、患者支援組織、観光団体の代表者ら22人で構成。来年8月までに5回開き、会議会場の展示や水俣市内の視察内容、歓迎会などについて検討する。
市役所であった初会合では、部会長の田上

「公害を経験した地元の私たちが、二度と起こしてはならないの思いや活動を伝えるのは意義深い。効果的な情報発信と温かいおもてなしを考えたい」とあいさつした。
県の担当者がこれまでの経緯を説明。意見交換では「熊本市で

水俣で中継したらどうか」などの提案が出た。
外交会議は国連環境計画（UNEP）が計画。日程は5日間で、環境省は3日目に水俣市での会合や視察を組み込むことを想定している。出席者は120カ国・約700人を見込む。（辻尚宏）

中国出身の東大大学院生シュー・ルイさん（左）は「現地の実情や、患者団体の意見の相違がなぜ生じたかなどを知り、問題解決の道筋を考えたい」と話した。（辻尚宏）

留学生 水俣病学ぶ

16カ国29人「被害の実態知った」



上野エイ子さん（左）の講話を聞く、教育プログラム参加者＝水俣市

東京大、九州大、熊本大など5大学の大学院留学生らが水俣病を学ぶ教育プログラムが21日、水俣市で始まった。アジアや南米16カ国の29人が参加。初日は患者の話や、患者多発地区を訪れて被害実態に触れた。環境問題の国際的なリーディング育成が狙いで

1月に続き2回目。25日まで滞在し、天草市御所浦町にも出向いて患者団体や支援者らの話を聞く。引率の小貫元治・東大大学院准教授によると、水俣病特別措置法の申請締め切りなどを受け「過去から現在に続く問題とくらえ、内容を充実させたい」という。
この日は水俣病センター相思社を訪問。認定患者で水俣病資料館語り部の上野エイ子さん（85）の講話を聞いた。上野さんは、夫と娘を水俣病で亡くしたことや、原因企業チックスに補償を求める座り

込みに参加した経験を紹介。「水俣病は奇病と言われ、世間の目が冷たく本当につらかった。二度とこのような悲惨な家族が出ない世の中にしてほしい」と語った。
中国出身の東大大学院生シュー・ルイさん（左）は「現地の実情や、患者団体の意見の相違がなぜ生じたかなどを知り、問題解決の道筋を考えたい」と話した。（辻尚宏）

熊本日日新聞（14面）
平成24年11月22日木曜日



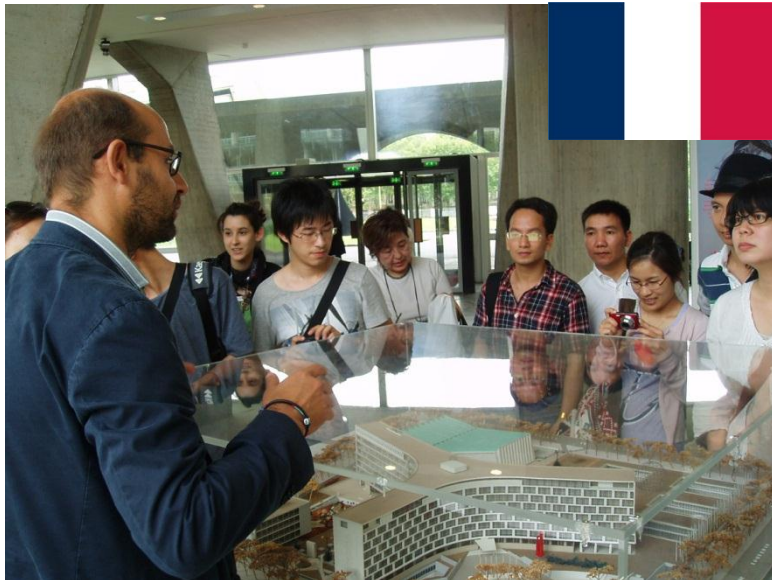
海外の環境の現場で研修する。 (第3国インターンシップ)



モンゴル



チュニジア



フランス(ユネスコ訪問)

ケニア



ヴェトナム



特別講義「*Meet the leaders*」

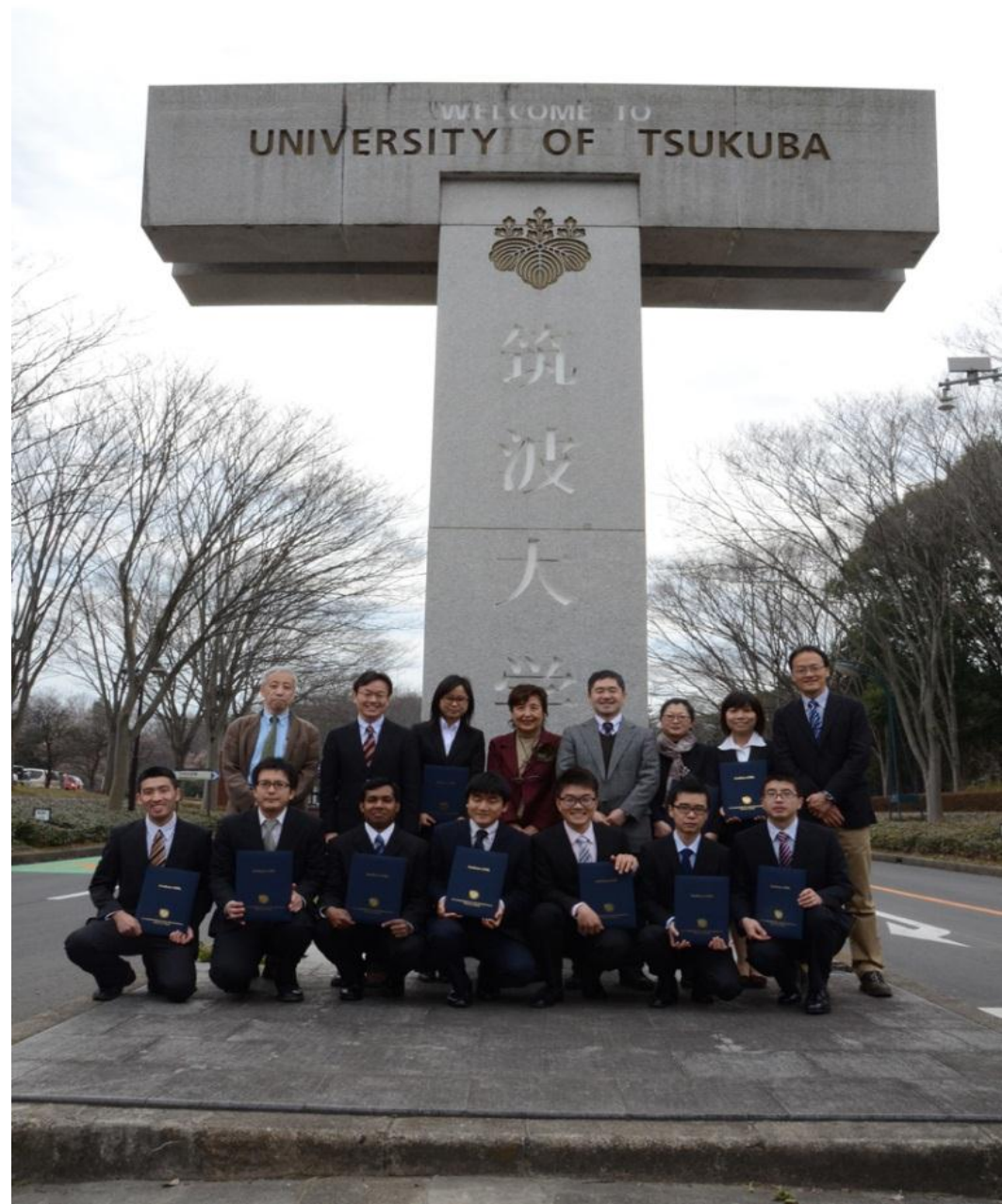


EDLカフェ EDLディベート



これまで14名が修了し、巣立って行きました。

2011年7月(4名)と2012年3月(10名)



環境ディプロマティックリーダー育成の道程



1年目

2年目

修了

環境科学実習

- 霞ヶ浦上水センター
- 国土交通省霞ヶ浦河川事務所（水質・植生・漁業）
- 廃棄物処理施設
- 電力中央研究所



水総合学	生物資源 リサイクル	水環境学 序論	循環環境学 概論
環境 倫理学	環境共生学 概論	予防環境 医学	
森林保全 計画論	環境空間 情報工学		

E

nvironmental specialist

環境政策
概論

環境政策
評価論

文化生態
原論

英語プレゼン
テーション・
ディベート論

国際シンポジウム
発表・討議

EDL Debate

- 水資源総合的マネジメント
- 土地利用、経済性、生態系、人間の健康
- 原子力発電とエネルギー問題の将来
- 福島原発事故に対する各国の報道と人々の反応
- 原発廃棄物の処理問題

D

iplomatic ability

環境
ディプロマティック
リーダー
特講

- 子どもたちにとっての環境問題
- 水処理を革新する膜分離技術
- 水俣病にみるメチル水銀の健康影響
- 人口爆発の現状と未来
- 地球温暖化問題：緩和と適応
- 水・文化の多様性、地球環境変動

チュニジアインターンシップ

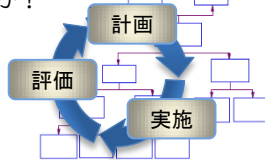
- チュニジア国環境省、保健省
- 同地方事務所等

水俣インターンシップ

- 国立水俣病総合研究センター
- 水俣病資料館
- 阿蘇たにびと博物館等

PCMワークショップ

水の過剰利用をいかに防ぐか？



修士論文

「ベトナム・ハノイ市における工業廃水の汚染管理政策に関する研究」

- 廃水処理に関わる科学技術
- 汚染物質管理技術
- GIS等の情報解析
- コミュニケーション・合意形成
- 政策立案・提言

EDL Certificate



Certificate Supplement

環境ディプロマ
ティックリーダー
修士（環境科学）

ベトナム
自然資源環境省

つくばEDL国際
コンソーシアム

